

平成27年度 自己評価結果公表シート

学校法人 ひつじ幼稚園
ひつじ幼稚園・第二ひつじ幼稚園

当園ではこの度、平成27年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施致しました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直す良い機会となりました。

また、それぞれの自己評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価の結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

「心やさしく、いきいきと、体のびのび、たくましく」を目標に、学校教育法の「健康」「人間関係」「環境」「言語」「表現」の5領域の内容について、伸び伸びと自然に学べるように、きめ細やかな配慮と指導を行っています。そして、一人ひとりの子どもの持っている能力を引き出すことにつとめ、思いやりと創造性豊かな子どもになるように、明るく生き生きとした楽しい保育を目指します。

目指す子ども像

- 健康で明るく元気な子
- よく考えて自分の意思の出せる子
- 素直で思いやりのある子
- 人の話を落ち着いて聞ける子
- 創造性豊かな子

II. 平成27年度の重点目標

- 教育内容、教育方針、目標の理解に努め、子どもの成長や発達にあった保育計画をたて、保育環境を整える。保育活動や行事を充実させる。
- 教職員同士の協力・連携をはかり、教職員体制を確立させる
- 幼児や保育についての研究をし、研修会にも積極的に参加をして理解を深める
- 園の安全・衛生管理体制を充実させる
- 保護者との連携をはかる

III. 平成27年度の評価項目とその取組み状況

評価項目	取組み内容	取組み状況
1. 教育内容	幼児の指導と保育活動 行事の充実 幼児のみとりと理解 保育活動や行事の充実 動物への思いやりと、 食育への取り組み	・子どもたちに愛情を持って関わり、温かく優しく支援し、ゆっくりと成長を見守っていくよう努めた。 ・子どもたちが心豊かに伸び伸びと生活ができるように努めた。 ・一つひとつの活動が子どもたちにとって楽しいと感じられるような保育指導を研究し、努めた。 ・一人ひとりに合った援助に努め、無理のない保育を行った。 ・一人ひとりの子どもに対して、目と目を見てしっかりと話しをして、温かく支援した。 ・学年ごとに子どもの成長や発達に合った保育計画(日案・週案・月案)をたて、毎月・毎週のねらいを定めて計画して保育を進めることで、ゆとりのある保育ができた。戸外遊びの時間を十分にとった。 ・専門医師より歯磨き指導を受けたり、手洗い、うがいの大切さを教わった。また保護者会を行い、保護者も園歯科医師から、子どもの歯についての話を聞く機会を設けた。 ・様々な経験や体験、行事を通して、子どもたちの好奇心や可能性を広げられるように、より楽しめる内容の工夫を務めた。 ・新しい活動や行事を提案し、子どもの成長にとって大切な経験や体験を積極的に取り入れていった。 ・虫や動物と関わり、自然を大切にする気持ちを持たせた。 ・年長組はミニトマトを栽培し、みんなで育て、サラダ・カレーライスパーティを行った、年中組はじゃがいも掘り遠足に行き、幼稚園で蒸かして食べたりした。また、夏休みの預かり保育の時に、みんなでサンドイッチや、そうめん、カレーを作って食べた。
2. 教職員体制の充実と	教職員体制を充実させ 連携を図る	・毎月の全体での職員会議で予定等をきちんと把握し、更に学年主任を中心に話し合い、学年ごとに見直しを持った計画をたて、準備を十分に行った。また、気付いたことを話しあい、情報を共有した。

教職員の質の向上	教職員全員が意識して質の向上に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員同士のコミュニケーションを大切にし、連携をはかった。クラスの情報交換や進み具合等を毎週確認するようにした。 ・新しい内容やより良い保育への改善、向上に努めた。 ・職員会議の他にも、保育前後に時間をつくり、職員同士で保育についての情報を話しあった。
3. 研修と研究	研修・研究への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会に参加し専門家の話を聞き、理解を深め、保育者としての質の向上に努めた。また、研修会で学んだことを、他の職員とも意見交換し理解を深めた。 ・怪我のときの応急処置のやり方や発達支援のこと等、市や県、外部団体が行う研修会に参加した。 ・幼保小に参加し、学んだことを報告した。
4. 安全・衛生管理	安全な園生活の見直しと、衛生面の管理 避難訓練の充実 フッ化物洗口事業への取り組み 防犯や自然災害への対策 安全点検票に基づく、定期的な安全点検	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスや通園コースで風邪での欠席者が多いときや、感染症での欠席者がでたときには、園長に報告し、教職員にも知らせ、そのことをふまえたうえで、注意深く視診を行った。 ・登園時に視診を行い、体調の変化等に早く気付くようにし、変化が見られたときには園長に報告し、必要に応じた対処を行った。子どもたちの様子をよく見て、かわったことがあれば休ませたり、熱をはかったりと、状態に応じた対応し、必要に応じて家庭に連絡したり、自宅まで送ったりした。 ・全体集会や、クラスでよく話をして、手洗い・うがいがいや、廊下は走らないことなど指導し、習慣付けていった。 ・保健衛生について季節にあった情報を手紙にて保護者の方へお知らせした。 ・定期的に避難訓練を全体で行い、各クラス毎でも防災頭巾をかぶる練習をしたり、避難の仕方や災害時の対策について再確認し、意識を高めた。 ・年長組は、週2回フッ化物洗口を行い、歯科衛生士による歯の健康教育も受け、虫歯予防への意識を高めた。また、年中組は子どもと保護者が、歯科衛生士による歯の健康教育を受け、次年度から始めるフッ化洗口に向けて、水でブクブクうがいの練習をして虫歯予防の意識を高めた。また全園児が昼食の後、歯磨きを行い、歯磨きのやり方を習慣づけていった。 ・安全点検票に基づき、遊具の点検を定期的に行ったり、子どもたちが危ない遊びをしていないかよく見て、危険と判断したことは、対処方法を話し合った。 ・熱中症対策として、暑い日の水分補給の大切さを、わかりやすく何度も話をしたり、水をこまめに飲むように配慮した。
5. 保護者との連携	情報の発信と受信 メールサービス、ホームページ、ラインプリントなどで連絡 保護者会と個人面談 行事への手伝い 守秘義務の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・全園児にメールサービスの登録をしてもらい、行事の前のお知らせや、急な連絡事項などを一括メール配信にて情報提供した。 ・個人面談を行い園や家庭での様子を話し、一人ひとりの子どものことを良く理解し、保護者と協力して成長を見守ることができた。 ・子どもの姿や、日々の出来事を気軽に見られるように、LINEサービスを利用して情報を発信した。 ・保護者会やクラス会等、連絡事項やクラスの様子を話す機会を設けて、保護者と園との共通理解に努めた。 ・個人面談や電話、連絡帳を通じて、園での様子を保護者に伝えたり、また家庭での様子を保護者から教えてもらいながら、理解を深め、一人ひとりの子どもに寄り添い、保護者と協力して成長を見守っていった。 ・行事の手伝いやプールの着替えの手伝い等をお願いし、保護者と園とで行事などがさらにより良いものとなるように協力していただいた。(保護者に無理のない範囲内でやってもらえるように、手伝いを改善しながらお願いした。)

IV. 平成28年度に取り組む課題

<p>1. 教育内容</p>	<p>幼児の指導と保育活動 行事の充実 幼児のみとりと理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>28年度も、一人ひとりの子どもに寄り添い、個性を尊重し、温かく優しく支援し、根気良くゆっくと成長を見守っていく。</u> ・ <u>全ての園児たちが、日々充実した楽しい生活が出来るよう配慮する。</u> ・言葉に出来ないサインを、きちんと受け止められるようにする。 ・子どもたちがそれぞれの活動に楽しんで取り組めるように、保育環境を整え、保育や指導の仕方を研究し、工夫していく。 ・子どもに無理のない保育計画をしっかりと立て、戸外遊びの時間を十分にとるようにする。 ・発達や成長にあった保育計画を立て、子どもが主体となって活動できるように配慮する。 ・子どもたちが自ら考え、発想や想像力が育つように、また、それぞれの活動に楽しんで取り組めるように、保育環境を整え、保育や指導の仕方を研究し、工夫していく。 ・行事ごとのねらいを理解し、それにそった保育を進めていけるように見直しをする。 ・子どもの成長に繋がっていくような、たくさんの経験や体験ができるよう保育内容を考え、新しい活動を取り入れて、子どもたちがより楽しめる保育を提供する。 ・童話や昔話の読み聞かせをしたり、また童謡や季節の歌を教える時間を増やし、充実させていく。 ・行事や季節などにより興味が持てるようなお話や、紙芝居を読む時間を増やす。 ・子どもたちが動物や植物に興味を持てるように、幼稚園の環境を今まで以上に整える。
<p>2. 教職員体制の充実と</p>	<p>教職員体制を充実させ連携を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も教職員間のコミュニケーションを大切にし、問題が起こったときの早期解決に努める。 ・全体の職員会議を設け、更に学年主任を中心に、学年でも保育やそれに必要な準備について話し合いを密にし、連携を図っていく。 ・他のクラスやベテラン教員の保育の様子を観察し、それにより気付いたことを意見交換し、お互いに学ぶ機会をつくる。他の教職員の保育の良いところを、見習うようにする。
<p>3. 研修と研究</p>	<p>研修・研究の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に研修会に参加したり、意識して他の教職員の保育の仕方を学び、向上に努める。 ・より良い保育を行うため、自分が苦手とする分野の向上に努める。 ・研修会で学んだことは職員会議で意見交換し、全員が理解を深められるようにする。
<p>4. 安全・衛生管理</p>	<p>安全な園生活の見直しと、衛生面の管理 避難訓練の充実 フッ化物洗口事業への取組み 防犯や自然災害への対策 安全点検票に基づく、定期的な安全点検</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より安全に登園・降園できるように、やり方や時間等を見直しし、必要な時には改善する。 ・廊下や階段などでの衝突を防ぐためにも、走らないことや右側通行を指導し、全体で注意していく。 ・年長組は28年度も引き続き、川越市の事業、「フッ化物洗口事業」を実施し、より一層、虫歯予防に対して、子どもと保護者の意識を高めていくようにする。また年中組では、その準備を行う。また全園児が歯磨きを習慣づけられるようになる。 ・健康な生活に必要な習慣や態度が身につくような言葉掛けをしたり、その場に応じた支援をする。 ・引き続き、手洗い、うがいの習慣をきちんと身につけさせる。 ・28年度も引き続き、防災ずきんをかぶり、定期的に避難訓練を行う。 ・また、地震等の自然災害や不審者が侵入したときの対処の方法について、教職員が普段から確認しあい、一人ひとりが実践できるよう心掛ける。 ・避難訓練の大切さを、紙芝居や絵本等を使い、わかりやすく伝える。 ・保育室やトイレ、遊具などの掃除をきちんと行い清潔に保つ。 ・安全点検票に基づいた安全点検を行い、園庭や園舎内で危険なところがないか等、注意していく。

5. 食育の充実と動物への思いやり	食育への取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・無理に食べさせることはせずに、みんなで食べることの喜びや、楽しさを感じさせ、自発的に食べたいと思えるような環境づくりをする。 ・食べ物に対して感謝の心や親しみを感じることができるよう、野菜や果物を育てたり、食材に触れる機会を保育の中にさらに取り入れていく。 ・28年度も年長組はミニトマトを栽培し、みんなで大切に育て、7月にはサラダ・カレーライスパーティを行い、子どもたちの関心や意識を高める。年中組も、食育に繋がるようなことが行う予定でいる。幼稚園全体では、お米作りを行う予定でいる。(食育への取組みを考え、新たに取り入れていく。) ・幼稚園にいる小鳥や、ウサギなどに関心を持たせ、動物への思いやる優しい気持ちを持たせる。
6. 保護者との連携	情報の発信と受信 メールサービス、ホームページ、ラインプリントなどで連絡 保護者会や個人面談行事への手伝い 守秘義務の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、子どもがいつもとは様子が違うときは、保護者と密に連絡をとり、連絡帳、電話、面談などで十分に話し合い、解決するよう努める。 ・保護者と園との共通理解のため、保護者会・クラス会などを開催する。 ・保護者の保育参加や行事の手伝い等を、保護者の無理のない範囲内でお願ひする。 ・個人情報に注意しながら、日々の出来事や子どもの様子を、ラインやホームページを利用して情報提供していく。 ・全園児にメールサービスの登録をしてもらい、一括して情報をメール配信出来るように改善する。]行事の前のお知らせや、急な変更事項等は、メールサービスを利用して情報提供をする。 ・個々の子どもや保護者、家族の情報は、決して口外しない。
7. 教職員としての資質向上	服装・身だしなみ等	<ul style="list-style-type: none"> ・ひつじ幼稚園の教職員であることの自覚を持ち、幼稚園の先生として、好感の持てる服装や髪型を心掛ける。 ・より良い保育を目指し、自分の不得意なことに対して、より向上できるように努める。 ・日々の反省をきちんとし、更に探求心を持ち、より良い保育を行えるようにする。